

進

令和 5 年度

新潟大学大学院現代社会文化研究科

【博士後期課程】

進学者選考要項

(2月選考・4月進学)

新潟大学大学院現代社会文化研究科

新型コロナウイルスの感染拡大状況等により本募集要項の内容に変更が生じた場合は以下のとおりホームページ等により周知しますので、出願前や受験前は特にご注意願います。

新潟大学ホームページ : <https://www.niigata-u.ac.jp/>



受験生特設サイト : <https://www.niigata-u.ac.jp/examinee/>



現代社会文化研究科ホームページ : <https://www.gens.niigata-u.ac.jp/>



※「新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する注意事項」は下記ホームページにて最新情報を随時更新しています。出願前や受験前は必ずご確認ください。

[https://www.niigata-u.ac.jp/admissions/faculty/ee\\_covid\\_19/](https://www.niigata-u.ac.jp/admissions/faculty/ee_covid_19/)



学校保健安全法施行規則において出席停止が定められている感染症に罹患した場合は、感染の拡大防止のため、学校保健安全法に準じた取り扱いとし、入学試験当日まで治癒していない場合又は出席停止期間を経過していない場合は、受験することができません（病状により学校医その他の医師において伝染の恐れがないと認められたときは、この限りではありません）。

また上記により、受験できなかった場合の追試験等の措置は行いませんのでご留意願います。

試験当日までは、なるべく人込みへの外出を避け、マスクの着用、手洗い・うがいの励行等、予防と体調管理に努めてください。

新潟大学大学院現代社会文化研究科〔博士後期課程〕への進学を志願する者に対し、次のとおり選考を行います。

#### 1 募集人員

専攻名	募集人員	備考
人間形成研究専攻	6人	募集人員は、本選考と10月入試及び2月入試をあわせたものです。
共生文化研究専攻	7人	
共生社会研究専攻	7人	

#### 2 出願資格

本学大学院の修士課程，博士前期課程又は専門職学位課程を，令和5年3月修了見込みの者。

#### 3 出願期間

令和4年12月19日（月）～12月22日（木）〔必着〕

持参する場合の受付時間は，平日9時から17時までです。

郵送する場合は必ず「書留速達」で郵送してください。

#### 4 出願手続

(1) 進学志願者は，本要項に添付の所定封筒（「出願書類在中」）に，下記(3)の出願書類を入れ，出願期間内に下記(2)の提出先に持参又は郵送してください。

なお，あらかじめ進学後の指導予定教員に連絡し，進学後の指導についての了承を得てください。

また，指導予定教員は，本要項9～13頁「博士後期課程の専攻・分野別教員名」に掲載されている教員に限ります。

(2) 出願書類提出先

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地

新潟大学人文社会科学系大学院学務係

電話(025)262-6166・6826

(3) 出願書類

- ① 進学願書・履歴書（本要項に添付の所定用紙を使用してください。）
- ② 受験票・写真票（本要項に添付の所定用紙を使用してください。）
- ③ 修了見込証明書（大学院修士課程，博士前期課程又は専門職学位課程のもの）
- ④ 成績証明書（大学院修士課程，博士前期課程又は専門職学位課程のもの）

⑤ 修士論文の写し及びその要旨（2,000字程度）

※学位論文審査申請後，速やかに提出してください。

⑥ 研究経過報告書（⑤の修士論文の写し及びその要旨を提出しない者のみ，本要項に添付の所定用紙を使用して作成し，提出してください。）

⑦ 研究計画書（本要項に添付の所定用紙を使用してください。）

⑧ 返信用封筒（本要項に添付の所定封筒を使用してください。）

① 入学試験関係書類 在中 1枚（354円分の切手を貼ってください。）

③ 入学手続書類 在中 1枚（切手を貼る必要はありません。）

⑨ 教育方法特例申請書

社会人で申請を希望する者のみ，本要項に添付の所定用紙にて提出してください。

⑩ 在留カードの写し及び旅券の写し（氏名記載頁及び 在留資格記載頁）外国籍を有する者のみ提出してください。

## 5 進学者の選考方法

(1) 「修士論文」を提出した者

- ① 書面審査：提出された「修士論文」について審査します。
- ② 口述試験：「修士論文」及び「研究計画書」を中心に行います。

(2) 「研究経過報告書」を提出した者

- ① 筆記試験（専門科目）：志望する専攻分野に関する1科目について行います。
- ② 口述試験：「研究経過報告書」及び「研究計画書」を中心に行います。

### 【受験上の留意事項】

#### 1 試験当日及び試験時間中の留意事項

- (1) 試験当日は「受験票」を必ず携帯してください。
- (2) 筆記用具等は，黒鉛筆（黒シャープペンシルを含む。）・黒ボールペン・鉛筆削り（電動式を除く。）・消しゴムとし，それ以外のものは使用できません。
- (3) 時計の使用は，計時機能だけのものに限りませす。
- (4) その他受験に関する詳細は，「受験案内」で指示します。

#### 2 不正行為

- (1) 次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は，その場で受験の中止と退室を命じられ，それ以後の受験はできなくなります。また，受験したすべての教科・科目の成績を無効とします。

- ① 志願票，受験票，写真票，解答用紙へ故意に虚偽の記入（受験票，写真票に本人以外の写真を貼ることや解答用紙に本人以外の名前・受験番号を記入するなど。）をすること。
- ② カンニング（カンニングペーパー・他の受験者の答案等を見ること，他の人から答えを教わることなど。）をすること。
- ③ 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- ④ 試験時間中に，問題冊子を試験室から持ち出すこと。
- ⑤ 解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- ⑥ 「解答はじめ。」の指示の前に，問題冊子を開いたり解答を始めること。
- ⑦ 試験時間中に，スマートフォン，ウェアラブル端末，携帯電話，電子辞書，ICレコーダー等の電子機器類を使用すること。
- ⑧ 試験時間中に，持ち込みを許可されたもの以外の補助具（定規，コンパス，電卓等）を使用すること。
- ⑨ 「解答やめ。」の指示に従わず，筆記用具等を持っていたり解答を続けること。

(2) 上記(1)以外にも，次のことをすると不正行為となることがあります。指示等に従わず，不正行為と認定された場合の取扱いは，上記(1)と同様です。

- ① 試験時間中に，持ち込みを許可されたもの以外の補助具（定規，コンパス，電卓）及びスマートフォン，ウェアラブル端末等の電子機器類等をかばん等にしまわず，身に付けていたり手に持っていること。
- ② 試験時間中にスマートフォンや携帯電話，時計等の音（着信・アラーム・振動音など）を長時間鳴らすなど，試験の進行に多大な影響を与えること。
- ③ 試験に関することについて，自身や他の受験者を利するような虚偽の申出をすること。
- ④ 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- ⑤ 試験場において試験監督者の指示に従わないこと。
- ⑥ その他，試験の公平性を損なう恐れのある行為をすること。

## 6 選考期日

期 日（曜日）	科 目 及 び 時 間	
令和5年2月17日（金）	筆記試験 （専門科目）	10:30～12:00
	口述試験	13:30～

## 7 試 験 場

新潟市西区五十嵐2の町8050番地

新潟大学人文社会科学系棟

## 8 合格者発表

令和5年3月2日（木）10:00

新潟大学大学院現代社会文化研究科ホームページに合格者の受験番号を掲載し発表するとともに，合格者には合格通知書を送付します。

(<https://www.gens.niigata-u.ac.jp/>)

なお、合否に関しての電話等による問い合わせには、  
一切応じません。



## 9 進 学 手 続

令和5年3月7日（火）～3月10日（金）

※詳細は後日、合格者に通知します。

## 10 注 意 事 項

- (1) 検定料及び入学料は不要です。
- (2) 授業料は前期分267,900円、後期分267,900（年額535,800円）〔予定額〕です。  
なお、在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。
- (3) 出願手続後は、出願書類等の返却及び記載事項の変更は認めません。
- (4) その他出願に際して疑問・不明の点は、人文社会科学系大学院学務係へお問い合わせください。 電話（025）262-6166・6826
- (5) 出願に関して、志望する専攻・分野・主指導教員等について問い合わせがある場合は、出願前に次の教員にお尋ねください。  
各教員にメールにて問い合わせる場合、メールの件名に必ず「（各専攻分野名）の出願について」と記載すること。

専 攻	分 野 代 表
人間形成研究専攻 加藤 茂夫 教授 (skato@ed.niigata-u.ac.jp)	人間形成文化分野 笠巻 純一 准教授 (jkasamaki@ed.niigata-u.ac.jp)
	現代教育文化分野 加藤 茂夫 教授 (skato@ed.niigata-u.ac.jp)
共生文化研究専攻 江畑 冬生 教授 (ebata@human.niigata-u.ac.jp)	地域共生文化分野 中村 元 准教授 (nakamura.moto@human.niigata-u.ac.jp)
	国際共生文化分野 江畑 冬生 教授 (ebata@human.niigata-u.ac.jp)
共生社会研究専攻 吉田 正之 教授 (myoshida@jura.niigata-u.ac.jp)	地域共生社会分野 吉田 正之 教授 (myoshida@jura.niigata-u.ac.jp)
	国際共生社会分野 神田 豊隆 教授 (kanda@jura.niigata-u.ac.jp)
	日本酒学分野 岸 保行 准教授 (kishi@econ.niigata-u.ac.jp)

## 11 授業料免除等

下記のいずれかに該当する者のうち、入学後、所定の期間内に申請を行った者について、選考の上、各期（前期・後期）ごとに授業料の全額又は半額を免除する制度があります。

また、授業料徴収猶予（延納又は月割分納）の制度もあります。

- (1) 経済的理由により納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合
- (2) 授業料の当該期の納期前6か月以内（新入学者に対する入学した日の属する期分の免除に係る場合は、入学前1年以内）又は納期中に、学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付が著しく困難であると認められる場合
- (3) 上記に準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合

## 12 奨学金（日本人学生）

日本学生支援機構には、学業・人物ともに優れた学生で経済的理由のため修学困難であると認められる者に対し、奨学金を貸与する制度があります。

この奨学金は、本人の申請に基づき、学業成績、研究能力及び家庭の経済的事情等を審査し、選考の上、日本学生支援機構に推薦し、決定されるものです。

## 13 奨学金（外国人留学生）

新潟大学では、優秀で向学心に富み、国際交流に貢献できる私費外国人留学生に対して、各種奨学金の推薦を行っています。

奨学金の推薦に関しては、本人の申請に基づき、入試成績等の各種成績や面接等を総合的に判断しています。

## 14 社会人学生のための教育方法の特例（“14条特例”）

本研究科は、企業等に在職のまま入学を希望する社会人のために、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例措置（「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において、授業又は研究指導を行う等適当な方法により教育を行うことができる。」）を導入し、昼夜開講や休業期間中における集中授業など、大学院における履修形態や教育方法の弾力化を図っています。

この特例措置は、本人の申請に基づき、実施しています。申請に当たっては、本要項に添付の所定用紙「教育方法特例申請書」を使用してください。また、在職していることを証明する書類を提出してください。

## 15 外国人留学生の受入れ

本研究科は、留学生の受入れを本研究科の知的国際貢献活動と位置づけ、その観点から外国人留学生特別入試を実施しています。これにより、日本と諸外国の相互理解を増進し友好関係を深めるとともに、日本の学術研究の成果を国際社会に普及し、また、日本の経済構造・社会構造を国際化することに資したいと考えています。

## 16 長期履修学生制度について

この制度は、職業（自営業及び臨時雇用を含む）を有している者、出産、育児又は親族の介護を行う必要がある者、心身に障がいがある者等に対して、標準修業年限（3年）を超えて4年又は5年にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することを可能にする制度です。

この長期履修を許可された者（長期履修学生）は、標準修業年限の授業料総額を希望する在学年限で分割して納めることとなります。

## 17 修業年限の特例について

本研究科では、「優れた業績を上げた者」に対して、在学期間を短縮する特例制度があります。

## 18 進学者選考に用いた個人情報の取扱い

- (1) 出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、①進学者選考（出願処理、選考実施）、②合格発表、③進学手続、④進学者選考方法等における調査・研究、分析及び⑤これらに付随する業務を行うために利用します。
- (2) 進学者選考に用いた選考成績の個人情報は、進学者選考方法等における調査・研究、分析を行うために利用します。
- (3) 各種業務での利用に当たっては一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下「受託業者」という）において行うことがあります。業務委託に当たり、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、お知らせいただいた個人情報の全部又は一部を提供します。
- (4) 出願に当たってお知らせいただいた個人情報は、合格者のみ、進学前指導等を行うために利用することがあります。
- (5) 出願に当たってお知らせいただいた個人情報及び選考成績は、進学者のみ、進学後の①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、奨学金申請等）、③授業料等に関する業務を行うために利用します。

なお、個人情報のうち、合格者の氏名及び住所については、本学の同窓会及び後援会からの連絡を行うために利用する場合があります。



## 「研究計画書」の書き方について

「研究計画書」は口述試験に際して重要な参考資料となりますので、下記の点に十分注意して記入してください。

### 「研究計画書」記入の留意点

「研究計画書」には、「研究題目」を明記し、研究題目についての説明と研究計画・方法について、それぞれ見出しを付けて記述してください。作成の際には、以下の点に注意してください。

#### 1) 研究題目

- a. 進学後、主としてどのような主題の研究をしたいと考えているのか具体的に記入してください。

「〇〇理論について」とか「〇〇に関して」というおおざっぱな表現ではなく、たとえば「〇〇〇〇がなぜ生じるのかについての理論的な解明」とか「日本の〇〇〇〇について」というように、何を研究しようとしているのかがわかるように記入してください。

- b. なぜそのような研究題目にしたのかという理由を、できれば「志願理由書」と関連づけて、具体的に記入してください。たとえば、修士課程（博士前期課程）で〇〇理論を勉強するなかで、〇〇現象、〇〇問題を理論的に解明したいという意欲がわいてきて、「〇〇現象（問題）がなぜ生じるのかについての理論的な解明」という研究題目を設定したというように記入してください。

- c. また、何らかの目的があって研究題目を設定した人は、それを具体的に記入してください。たとえば、いま会社員・社会人として〇〇という仕事をしており、〇〇〇〇についてより詳しく勉強すれば、それが〇〇に役立つと思い、「日本の〇〇〇〇について」という研究題目を設定したというように記入してください。

#### 2) 研究計画・方法

進学後の学習や研究を進めるにあたってのスケジュール、学習の順序、研究の進め方など、できるだけ具体的に記入してください。もちろん、実際は進学後、教員の指導で計画・方法はかなり異なるものになることは十分予想されます。しかし、ここでは、現時点で考えている計画・方法を書いてください。たとえば、大学院の1年次の前半では〇〇〇〇問題・現象に関する代表的な学説を学習し、1年次の後半では、その中で現実的だと思われる理論やモデルに絞って学習を深める。2年次には具体的なデータや資料を用いながらそのモデルを検証する作業を行い、博士論文に仕上げていく、というような大まかなスケジュールを示した上で、それぞれの段階でどのような文献や資料を利用し、参照する

のかということについて、可能な限り具体的に記入してください。

研究によってどのような成果が得られると考えているのか、あるいはこうした成果が上げられたらよいという抱負等がありましたら、「研究により期待される成果」として別に見出しを付けて記入してください。これについては、現実的であるかどうかは問いませんから、たとえば、〇〇〇〇問題（現象）の背景や仕組みが明らかになることによって、現代の社会や文化の将来を考えるうえで、有益な指針が得られることになるというように、できるだけ具体的に記入してください。

※研究計画書等は、以下の要領で作成してください。

手書き

志願理由書

受験番号

フリガナ

氏名

24頁の「志願理由書・研究計画書の書き方について」にしたがって作成してください。パソコン等で作成したものを未用紙に貼付しても構いません。

記入しない

手書き又は  
「パソコン等で作成し、枠に収まるように印刷したもの」をのりで貼り付け  
(続きがある場合は、裏面に続きをはり付け)

### 博士後期課程の専攻・分野別教員名

※授業科目名及び担当教員は変更することがあります。最新の情報につきましては新潟大学大学院現代社会文化研究科ホームページ (<https://www.gens.niigata-u.ac.jp>) をご覧になるか、担当窓口へお問い合わせください。

※教員氏名が「未定」の科目は、原則として開講されません。 \*塗りつぶしのある教員は主指導担当可

専攻	分野	氏名	担当科目名	職名	備考
人間形成研究専攻	人間形成文化分野	新美 亮輔	知覚情報研究	准教授	
		中嶋 豊	知覚実践研究	准教授	
		福島 治	性格形成研究	教授	
		並川 努	性格測定研究	准教授	
		小林 恵	認知発達研究	准教授	
		松井 克浩	現代社会研究	教授	
		阿部 ふく子	認識哲学研究	准教授	
		未定	比較思想形成研究		
		青柳 かおる	宗教思想研究	教授	
		渡邊 洋子	成人教育思想研究	教授	
		佐藤 靖	科学技術論研究	教授	
		未定	文化人類学研究		
		古賀 豊	メディア社会文化研究	准教授	
		中村 隆志	社会情報システム研究	教授	
		杉原 名穂子	ジェンダー研究	准教授	
		渡邊 登	社会ネットワーク研究	教授	
		伊藤 嘉高	地域社会学	准教授	
		中島 伸子	認知形成研究	教授	
		太田 紘史	認知思想研究	准教授	
		横山 知行	家族力動論研究	教授	
		神村 栄一	行動変容研究	教授	
		田中 恒彦	認知行動病理学研究	准教授	
		未定	対人援助研究		
		天野 達郎	健康行動研究	准教授	
		牛山 幸彦	運動機能研究	教授	
		八坂 剛史	身体発達研究	教授	
		未定	身体思想研究		
		杉村 桃子	衣環境評価研究	准教授	
		中村 和吉	衣環境材料研究	准教授	
		飯野 由香利	住環境研究	教授	
		未定	食環境研究		
		大庭 昌昭	水中運動研究	教授	
		笠巻 純一	健康支援科学研究	准教授	
		村山 敏夫	健康運動研究	准教授	
		森 恭	健康行動形成研究	教授	
		未定	健康体操研究		
		笠井 直美	健康教育研究	教授	
		田中 誠二	コミュニティヘルス研究	准教授	

専攻	分野	氏名	担当科目名	職名	備考		
人間形成研究専攻	現代教育文化分野	雲尾 周	教育行政研究	准教授			
		未定	教育測定研究				
		澤邊 潤	教育開発研究	准教授			
		未定	教育政策と教育法研究				
		松井 賢二	キャリア教育研究	教授			
		相庭 和彦	生涯学習研究	教授			
		長澤 正樹	特別支援教育研究	教授			
		有川 宏幸	障害児者支援研究	教授			
		入山 満恵子	障害児者コミュニケーション支援研究	准教授			
		渡邊 流理也	障害児者生理的発達支援研究	准教授			
		田中 一裕	社会科授業開発研究	教授			
		阿部 好貴	数学教育研究	准教授			
		松澤 伸二	英語教育評価研究	教授			
		加藤 茂夫	英語教育読解指導研究	教授			
		足立 幸子	読書教育研究	教授			
		鈴木 賢太	音楽演奏表現研究	教授			
		森下 修次	音楽実践研究	准教授			
		清水 研作	音楽創作研究	教授			
		田中 幸治	音楽表現研究	教授			
		宇野 哲之	演奏表現研究	教授			
		佐藤 哲夫	美術表現研究	教授			
		丹治 嘉彦	現代美術表現研究	教授			
		柳沼 宏寿	美術教育研究	教授			
		橋本 学	デザイン表現研究	教授			
		永吉 秀司	現代日本画造形表現研究	准教授			
		高木 幸子	家庭科教育方法研究	教授			
		福田 学	教育哲学研究	准教授			
		古田 和久	教育社会学研究	准教授			
		岡野 勉	教育方法学研究	教授			
		一柳 智紀	教授学習研究	准教授			
		釜本 健司	社会科教育史研究	准教授			
		柴田 透	経済教育研究	教授			
		共生文化研究専攻	地域共生文化分野	中村 元	環日本海地域関係研究	准教授	
				未定	日本国家形成研究		
村上 正和	東アジア文化圏研究			准教授			
白石 典之	ユーラシア文化形成研究			教授			
堀 健彦	歴史環境形成研究			教授			
前田 洋介	社会地理学研究			准教授			
北村 繁	火山地域関係研究			教授			
山内 民博	朝鮮社会構造研究			教授			
広川 佐保	アジア近代社会研究			准教授			
未定	中国文芸文化研究						
藤石 貴代	近代朝鮮文学研究			准教授			
加賀谷 真梨	環日本海民俗研究			准教授			
高橋 早苗	日本文化形成研究			准教授			

専攻	分野	氏名	担当科目名	職名	備考
共生文化研究専攻	地域共生文化分野	中本 真人	日本芸能文化研究	准教授	
		三ッ井 正孝	日本近代言語文化研究	准教授	
		堀 竜一	日本近代文芸文化研究	教授	
		飯島 康夫	日本民俗研究	准教授	
		廣部 俊也	日本伝統文芸文化研究	准教授	
		原 直史	日本近世社会研究	教授	
		岡村 浩	書道文化研究	教授	
		角田 勝久	東アジア書跡研究	准教授	
		角谷 聰	中国古典文学研究	准教授	
		土屋 太祐	中国文化研究	准教授	
		干野 真一	中国語言語表現研究	准教授	
		岡田 祥平	現代日本語動態研究	准教授	
		磯貝 淳一	日本古代言語文化研究	教授	
		池田 英喜	現代日本語文法研究	准教授	
		藤田 益子	中国歴史言語文化研究	准教授	
		未 定	日本語教育研究史		
		未 定	欧米言語文化研究		
	高橋 康浩	アメリカ社会思想研究	准教授		
	逸見 龍生	フランス思想史研究	教授		
	江畑 冬生	機能言語学研究	教授		
	細田 あや子	ヨーロッパ美術文化研究	教授		
	高橋 秀樹	地中海文化史研究	教授		
	秋 孝道	比較文法研究	准教授		
	市橋 孝道	イギリス文芸文化研究	准教授		
	辻 照彦	英米メディア文化研究	教授		
	猪俣 賢司	比較文学研究	准教授		
	津森 圭一	フランス文芸文化研究	准教授		
	未 定	ドイツ社会文化研究			
	鈴木 正美	ロシア文化研究	教授		
	番場 俊	表象文化研究	教授		
	石田 美紀	映像文化研究	教授		
	キム・ジュニアン	映像思想研究	准教授		
	小林 繁子	ヨーロッパ歴史社会研究	准教授		
田中 咲子	西洋美術史研究	准教授			
岡村 仁一	アメリカ近代小説研究	准教授			
本間 伸輔	日英語比較統語論研究	教授			
大竹 芳夫	応用言語学研究	教授			
甲斐 義明	近現代芸術研究	准教授			
山田 陽子	語用論研究	准教授			
ハドリー・グレゴリー	英語圏文化研究	教授			

専攻	分野	氏名	担当科目名	職名	備考
共生社会研究専攻	地域共生社会分野	武藤 秀太郎	比較経済思想史研究	教授	
		未定	ニュー・パブリックマネジメント研究		
		中東 雅樹	公共経済学研究	准教授	
		溝口 由己	中国経済研究	教授	
		澤村 明	NPO論研究	教授	
		根岸 睦人	現代財政研究	准教授	
		長尾 雅信	マーケティング研究	准教授	
		高宮 浩司	ゲーム理論研究	准教授	
		鈴木 正朝	情報化社会制御研究	教授	
		真水 康樹	中国政治社会研究	教授	
		馬場 健	現代行政研究	教授	
		未定	行政理論研究		
		未定	行政法研究		
		上村 都	憲法研究	教授	
		田寺 さおり	刑法研究	准教授	
		櫻井 香子	刑事政策研究	准教授	
		近藤 明彦	民事法研究	教授	
		今本 啓介	財政法研究	教授	
		稲田 隆司	刑事訴訟法研究	教授	
		吉田 正之	会社法研究	教授	
		梅津 昭彦	商事法研究	教授	
		内田 千秋	企業法研究	准教授	
		内田 健	地域社会研究	准教授	
		未定	災害地理研究		
		山崎 剛志	上級ミクロ経済学研究	教授	
		長谷川 雪子	上級マクロ経済学研究	准教授	
		田中 伸至	医療制度研究	教授	
		堀籠 崇	医療経営研究	准教授	
		岸 保行	組織行動論研究	准教授	
		未定	経営組織研究		
		伊藤 龍史	経営戦略論研究	准教授	
		上山 泰	成年後見法研究	教授	
		未定	社会保障政策研究		
	国際共生社会分野	木南 直之	比較労使関係研究	准教授	
		兵藤 守男	比較政治制度研究	教授	
		田巻 帝子	家族法制研究	教授	
		大島 梨沙	市民社会基本法研究	准教授	
		石畝 剛士	契約法研究	准教授	
		小泉 明子	法社会研究	准教授	
		田中 幸弘	ファイナンス法研究	教授	
		丹羽 正夫	刑事制度論研究	教授	
		未定	倒産法研究		

専攻	分野	氏名	担当科目名	職名	備考
共生社会研究専攻	国際共生社会分野	岩寄 勝成	損害賠償法研究	准教授	
		澤田 克己	国際経済法研究	教授	
		渡邊 修	知的財産法研究	准教授	
		石川 耕三	開発途上国経済研究	准教授	
		栗田 佳泰	北米憲法研究	准教授	
		道上 真有	ロシア経済研究	准教授	
		藤堂 史明	環境経済研究	准教授	
		白川 展之	技術経営研究	准教授	
		藤巻 一男	租税理論研究	教授	
		大森 拓磨	アメリカ経済研究	准教授	
		内藤 雅一	国際経済研究	教授	
		加井 久雄	分析的会計研究	准教授	
		藤田 憲	EU経済研究	准教授	
		濱田 弘潤	応用ミクロ経済学研究	教授	
		未 定	比較組織文化研究		
		向山 恭一	政治思想研究	教授	
		神田 豊隆	国際政治史研究	教授	
		渡辺 豊	国際人権研究	教授	
		山本 真敬	現代憲法理論研究	准教授	
		稲吉 晃	日本政治外交史研究	教授	
	張 雲	国際関係論研究	准教授		
	未 定	西洋経済史研究			
	学日分本野酒		澤村 明	経済学から見た酒	教授
		伊藤 龍史	酒とベンチャービジネス	准教授	
		岸 保行	酒蔵組織と経営	准教授	